



**札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor***

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	文化的能力に関する科目開設の実態調査 アメリカの看護・理学療法・作業療法プログラムのホームページから
Author(s)	坂無, 淳; 道信, 良子
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要, 第 9 号: 25-28
Issue Date	2006 年
DOI	10.15114/bshs.9.25
Doc URL	<a href="http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/4924">http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/4924</a>
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n13449192925.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

## 文化的能力に関する科目開設の実態調査 —アメリカの看護・理学療法・作業療法プログラムのホームページから

坂無 淳<sup>1)</sup>、道信良子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 北海道大学大学院文学研究科

<sup>2)</sup> 札幌医科大学保健医療学部

医療従事者が多様な文化、社会、経済的背景をもった患者の状態を的確に把握し、対処していく能力である文化的能力が、現在アメリカを中心に注目されている。本稿では、アメリカの大学における看護師、理学療法士、作業療法士の養成プログラムの中で、文化的能力に関する科目がどのように取り入れられているかを調査した。具体的には11州の看護、理学療法、作業療法の養成プログラムを持つ大学の公式ホームページを閲覧した。地域医療、女性医療、精神医療、家族医療などの科目と関連させて、文化に関係した内容を教えるものが多く、また少数ではあるが文化的能力そのものを扱う科目も存在した。看護では、102校中27校(26.5%)が、理学療法では40校中27校(67.5%)が、作業療法では、25校中16校(64%)が文化的能力に関する科目を取り入れていた。

<キーワード> 文化的能力、医療専門職、教育プログラム、多文化社会

### The Actual Condition Survey of Courses on Cultural Competency :From Web Pages of American Nursing, Physical and Occupational Therapy Programs

Jun SAKANASHI<sup>1)</sup>, Ryoko MICHINOBU<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Hokkaido University

<sup>2)</sup> Sapporo Medical University

“Cultural Competency” attracts attention centering around the United States these days. “Cultural Competency” means competency that health care professionals can understand correctly statuses of patients who have diverse cultural, social and economic backgrounds and cure them effectively. In this paper, I consider how courses concerning “Cultural Competency” are incorporated into education programs of Registered Nurses, Physical Therapists (PT) and Occupational Therapists (OT). Homepages on the web of universities and colleges which have Nursing, PT or OT programs in eleven states are researched. There are more schools which have courses where contents about culture are taught in relation to community health, women's health, mental health and family health. On the other hand, a few schools have courses which deal with “Cultural Competency” itself. In Nursing schools, 27 schools out of 102 schools (26.5%) having courses concerning “Cultural Competency” are incorporated into education programs. 27 schools out of 40 (67.5%) in PT schools have them. And 16 schools out of 25 OT schools (64%) have them.

Key Words : Cultural competency, Health care professional, Education program, Multicultural society

Bull. Sch. Hlth. Sci. Sapporo Med. Univ. 9:23-26 (2006)

### 目 的

近年アメリカで医療専門職養成プログラムの中に文化的

能力に関する教育を組み込む動きが見られている。文化的能力とは、医療従事者が多様な文化、社会、経済的背景をもった患者の状態を的確に把握し、対処していく能力である。しかし、文化的能力に関する教育がどのようにプログ

ラムの中で取り入れられているのかについてあまり知られていない。そこで本調査では、アメリカの大学の看護師（Registered Nurse：RN）、理学療法士（Physical Therapist：PT）、作業療法士（Occupational Therapist：OT）を養成する大学において、どのように文化的能力に関する科目が取り入れられているかを大学のホームページから把握する。

### 医学部の場合

文化的能力の教育に関する先行研究は、多くが医学部のものであるため、医学部の調査を参考にする。先行研究には、文化的能力に関する科目が取り入れられている大学数を調べる研究と、文化的能力を取り入れた事例報告の2つがあるが、前者から以下の点がわかる（注1）。まず、文化に関しての科目を取り入れている学校はまだ少ない。また他講義のなかで文化に関して触れている例が多い。更に、文化に関する科目は、多くの場合、教えられていたとしてもプログラムの中で周辺的である。また、科目の取り入れ例は学校によって多様であり、まだ定型化された形はない。

Floresは132校のアメリカ・カナダの医学部に調査し、文化についての教育が不十分なことを示した。マイノリティの文化の教育も不十分（28%）、文化的能力のみを扱う科目を持つ学校は8%である<sup>1)</sup>。Pena Dolhunはアメリカの31の医学部に調査を行った。19校から資料を入手したが、6校（32%）が文化的能力に焦点を当てた科目を持ち、13校は、他講義の中で文化的能力について触れていた<sup>2)</sup>。Azadはカナダの16の医学部に調査を行った。カリキュラムの目的に文化という言葉を含めているのは8校、7校は言葉を入れてはいないが多様に取り入れていた。プログラムがあっても、実践には多くの障害があり、指導スタッフの教育も必要である<sup>3)</sup>。

事例報告では、参加者の文化的能力の高まりの肯定的評価が紹介されている。例えば、Fergusonのニューイングランド州とニューヨーク州の医学部スタッフへの2年間の文化的能力育成カリキュラムの事例がある<sup>4)</sup>。他に、University of California San Franciscoのレジデントに対する1ヶ月の文化的能力訓練プログラム（ワークショップ、講義、地域での実習）の紹介がある<sup>5)</sup>。

### アメリカのRN、PT、OTプログラム

日本とはシステムの異なるアメリカのRN、PT、OT養成プログラムを簡単にまとめる。RNへの一般的なコース、BSN（看護学学位）プログラムでは、2年まで看護学部には所属せず、pre-requisitesという看護学部の要求科目を取得後、3年次にGPA、面接などの選抜を経て看護学部に入る。卒業後、各州のNational Council Licensure Examination for Registered Nursesを受験し、RNになる。

PTの場合、学部（Health Scienceに関する学部でなくとも構わないが、54単位程度のpre-requisitesを取得していることが要求されている）を卒業した後、3年間のDoctor of Physical Therapy（DPT）プログラムに入学する。卒業後、National Physical Therapy Licensure Examに合格し、PTとなる。アメリカにはPTとPTA（PT Assistant）の2つの資格があるが、今回はPTプログラムのみを扱う。PTAは大学、短大の2年課程を卒業した人の資格で、PTAはPTの指示下で業務を行う。そのため、日本と資格の内容を合わせるためPTのプログラムについてみる。これまでは学士レベルのPTプログラムも存在したが、2002年以降、学士レベルのPTプログラムは認可されておらず、2020年までに全てをDPTにするようにAPTA（後述）は進めている。

OTの場合、PTと同様に、学部（Health Scienceに関する学部でなくとも良いがpre-requisitesをとっておく）を卒業後、2年のMaster of Occupational Therapy（MOT）プログラムに入学する。卒業後、National Board for Certification in Occupational Therapyの試験に合格し、OTになる。OTにもOTA（OT Assistant）という資格があるが、PTと同様の理由から、作業療法においても、OTのプログラムのみを調査した。よって看護の調査では学部（4年）、理学療法では博士（3年）、作業療法では修士（2年）を調査したことになる。

### 調査方法

看護についてはAACA（American Association of Colleges of Nursing）のホームページのリストから、Alabama、Arizona、California、Colorado、Connecticut、Delaware、Colorado、Connecticut、Delaware、District of Columbia、Floridaの11州（注2）の102校のBSNプログラムのホームページを閲覧した<sup>6)</sup>。理学療法については、APTA（American Physical Therapy Association）のPTプログラムの大学のリストから、看護と同じ州の大学40校のホームページを調査した<sup>7)</sup>。作業療法については、AOTA（American Occupational Therapy Association）のOTプログラムの大学のリストの中から同じ州の25校のホームページを調査した<sup>8)</sup>。

調査では、アメリカの多くの大学ではシラバスがホームページ上でPDFファイルの形で公開されているため、プログラム概要、授業科目名、シラバス等をかなり詳細にホームページ上で閲覧できた。文化的能力とは、医療従事者が、多様な文化、社会、経済的背景をもった患者の状態を的確に把握し、対処していく能力であるが、関連するcultural competency, cultural diversity, culture, ethnic, social, economic, gender, holistic approachの言葉が科目名や科目説明にあったものをリストアップした。

## 看護の調査結果

文化的能力に関係する科目が取り入れられていた大学は102校中27校で26.5%である。科目数は全部で82科目である。そのうち、ホームページ上から選択必修の別がわかる科目が55科目（不明が27）ある。必修の科目が40科目（選択が15科目）で72.7%となっている。

文化的能力に関する科目は大きく2つに分けられる。一つは健康診断、コミュニティ、公衆衛生、女性医療、精神医療、家族などの科目において、文化的能力に関係した内容を教えるものである。これらは必修科目で行われる。もう一つは科目のタイトルにcultural、multi cultural、diversity等つくもので選択科目が多い。しかし、いくつかの大学（University of California Los Angeles、Samford University他）では必修である。

注目すべき大学に、culturally competent careという言葉を使っているUniversity of Tampaがある。また、詳細なシラバスがウェブで見ることのできるFlorida State Universityも参考になる。他に特色のある大学として、ヒスパニックとアフリカン・アメリカンに対する文化的能力を強化しているWilmington Collegeがある。ここでは通常のBSNコースの他、スペイン語やスペイン文化を集中して教育するヒスパニック文化看護プログラムがある。基礎スペイン語、医療現場でのスペイン語、スペイン文化論のほか、ヒスパニックの多い地域での臨床実習がある。またNational Universityではスペイン語が必修である。一方Florida A&M University、Bethune-Cookman Collegeは大学自体でアフリカン・アメリカン研究が盛んなため、看護学生もアフリカン・アメリカン研究の科目が必修である。

## 理学療法の調査結果

理学療法については40校中27校（67.5%）が文化的能力に関係すると考えられる科目を持っていた。科目数は全部で50科目。そのうち、ホームページ上から選択必修の別がわかる科目が49科目（不明が1）である。必修の科目が45科目（選択が4科目）で91.8%となっている。

大きく分けて精神疾患のある患者の心理社会的な状況について学ぶものと、女性の病気に関連して文化的能力を学ぶもの、理学療法士の倫理的側面を学ぶものなどがある。中でもNova Southeastern Universityには「コミュニケーションと文化的能力」という科目が必修である。ここでは医療専門職間のコミュニケーション方法や文化的能力について学ぶ。また、Chapman Universityでは「文化的多様性とケアの責任」という科目が必修である。ここでは人種差別、性差別、同性愛差別の問題をとりあげ抑圧理論を学び、理学療法の実践への現在のかつ将来的な示唆を含む歴史的な視点を学ぶ。

## 作業療法の調査結果

作業療法については25校中16校（64%）が文化的能力に関係すると考えられる科目を持っていた。科目数は全部で34科目である。そのうち、ホームページ上から選択必修の別がわかる科目が31科目（不明が3）ある。すべてが必修の科目（31科目）で100%となっている。

大きく分けて、精神疾患のある患者の心理社会的な状況について学ぶもの、老人・若年者に関連して文化的能力について学ぶもの、作業療法の基礎的科目その他の中で文化と健康・医療の関係を学ぶものがある。後者の中で、Dominican University of Californiaでは、文化の違い、医療方法の違いについて学ぶ「文化と職業」という科目が必修である。またSan Jose State Universityの「作業療法における文化的多様性」では、職業文化、貧困・障害の状態にある人の文化、エスニシティやライフスタイルによる文化の差異の紹介によって、多様な集団を治療する作業療法士の役割を再検討する。

## 考察と今後の課題

以上の調査から、学部ごとに文化的能力に関する科目を開講している大学の割合を求めると以下ようになる。看護：26.5%（27/102校）、理学療法：67.5%（27/40校）、作業療法：64%（16/25校）である。またホームページ上で必修の科目数における割合は、看護：72.7%（40/55科目）、理学療法：91.8%（45/49科目）、作業療法：100%（31/31科目）となっている。

理学療法が、文化的能力に関する科目を開講する大学の割合が高い理由は、まず3年の博士課程であるため、他課程より多様・発展的な科目をカリキュラムに組み込むことができるためである。他に重要な理由に、APTAの組織的な動きがある。APTAのホームページでは、文化的能力の定義や取り入れの方法などが紹介・議論されている。更に、APTA内に2001年から文化的能力委員会が設置されており、他に現役PT向けの教育も行われている。

一方、開講学年については大学により様々であり、一般的な傾向を見つけることはどの学部においてもできなかった。その理由は、文化的能力を他の様々な題材と共に学ばせる大学が多いので、その組み合わせる題材を扱う科目がどの学年にあるかで、文化的能力をどの学年で学ぶかが決まることが多いためであろう。

取り入れる際には、どの課程においても地域、女性、精神、家族などの科目と関連させて、文化に関して教える場合が多いことがわかった。また少数ではあるが文化的能力そのものを扱う科目も存在した。

今後は以下の2点に関する調査が必要であろう。まず、文化的能力に関する科目を学ぶことで、学生に実際にどの

ようにどのくらい文化的能力がついたかを評価する調査である。また、文化的能力に関する科目がどのように増減しているかという歴史的変遷に関する調査である。

- 注1) 科目が周辺的かを判定するために、何年時か、必修か選択か、教授スタッフは誰か等の情報に注目することが重要であることもわかる。
- 注2) 調査期間(2006年2月から3月)の制限から、アメリカ54州のうちアルファベット順で11州を調査。

### 参考文献

- 1) Flores G, Gee D, Kastner B: The teaching of cultural issues in U. S. and Canadian medical schools. *Academic Medicine*75 : 451-455, 2000.
- 2) Pena Dolhun E, Munoz C, Grumbach K: Cross-cultural education in U.S. medical schools: development of an assessment tool. *Academic Medicine*.78 (6) :615-622, 2003.
- 3) Azad NA, Power BA, Dollin JA, et al.: Cultural sensitivity Training in Canadian Medical schools. *Academic Medicine*.77 : 222-228, 2002.
- 4) Ferguson WJ, Keller DM, Haley HL, et al: Developing culturally competent community faculty: a model program. *Academic Medicine*. 78 (12) :1221-1228, 2003.
- 5) Takayama JI, Chandran C, Pearl DB: A one-month cultural competency rotation for pediatrics residents. *Academic Medicine*76 (5) : 514-515, 2001.
- 6) AACAC: AACAC Members School. <参照 2006.7.23><http://www.aacnche.edu/>
- 7) APTA: CAPTE Accredited Physical Therapist Education Programs <参照 2006.7.23>  
<http://www.apta.org>
- 8) AOTA: OT Programs Accredited. <参照2006.7.23>  
<http://www.aota.org/>